

令和5年度 学力向上プラン

学校名 中央区立京橋築地小学校

学校の教育目標

- ・よく考える子
- ・思いやりのある子
- ・たくましい子

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

- ・学ぶ楽しさが得られる授業づくりに取り組む。
- ・授業内容の工夫のほか、朝学習、放課後補習などを活用し、基礎学力の確実な定着を図る。
- ・校内研究と学力向上委員会を生かした授業改善、基礎学力定着への取り組みを行う。

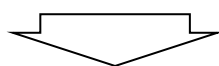
令和5年度「学習力サポートテスト」や令和4年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<p>4年生は、登場人物の気持ちの変化や段落の役割についての記述の正答率が目標値から4%弱低い。</p> <p>5年生は、昨年度の課題であった、「登場人物の気持ちについて叙述を基に捉える」ことについて今年度は大幅な改善が見られた。一方で連用修飾語についての問題が昨年から引き続き目標値を大きく下回っている。また、今年度は新たに漢字の書き取りも全国の正答率を下回る結果であった。</p> <p>6年生は、前年度より全ての観点においてポイントが上がっている。領域別にみると「情報の扱い方に関する事項」が前年度校内、今年度区内と比較しても低く目標値に到達できていない。</p>	<p>【4年】物語の登場人物について叙述を基に気持ちの変化を捉えたり想像したりする力が弱い傾向にある。</p> <p>【5年】4年生までに習っている漢字を正しく書くことができていない。連用修飾語のはたらきを理解していない。</p> <p>【6年】情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理して読みとる力が弱い傾向がある。</p>
算数	<p>4年生は「長さ・重さ」の正答率が目標値から2%弱低い傾向にある。</p> <p>5年生は、「角の大きさ」「小数」の正答率が目標値から10%近く低い傾向があった。また、選択問題に比べて記述問題に弱い。</p> <p>6年生は、観点別にみると、「思考、判断、表現」は前年度校内、今年度区内と比較して上回っており「知識、技能」「主体的に学習に取り組む態度」は下回っている。領域別にみると、ポイントが上がっているのは「データの活用」、下がっているのは「数と計算」「図形」「変化と関係」の領域である。</p>	<p>【4年】mやkm、gやkgなど単位の関係が理解できていない。</p> <p>【5年】目的に応じて考察したり、目的に合う理由を説明したりする力が弱い傾向がある。</p> <p>【6年】整数÷整数の習熟が不十分で、小数の文章題における図の説明が十分にできていない。合同な三角形の作図の反復練習が足りていない。</p>
社会	<p>4年生は、「市の様子」「安全なくらしー火事ー」について正答率が目標値から10%以上低い問題がある。</p> <p>5年生は、「くらしをささえる水」の内容の正答率が他の内容に比べると低い。年表を読み取る問題の正答率が5割を切っている。</p> <p>6年「さいばい漁業の利点について、資料をもとに考</p>	<p>【4年】土地の様子に着目して考えることや火事が起きたときの出動の仕組みについてなど資料を読み取る力が弱い傾向にある。</p> <p>【5年】「くらしをささえる水」の内容への理解が不十分である。年</p>

	えている」の正解率が目標値より16%以上低い。また全国平均より低くなっている。	表を読み取って問題を解くことが苦手である。 【6年】資料の読み取る力が足りない。
理科	4年生は、「磁石の性質」「電気の通り道」の正答率が目標値より7%弱低い。 5年生は、「生物」「空気のあたたまりかた」「電気」の正答率が目標値10%近く低い傾向があった。記述問題は、苦手な部分と得意な部分とで領域が分かれている。 6年生は、「タンポポの花のつくりから、アサガオと共通するつくりを推測する」が目標値よりも25%以上も低い。「物の溶け方」ではグラフの読み取りで目標値より10%低い。「植物の発芽と成長」ではどんぐりの養分について仮説を立て、問題を解決する実験の方法を構想し指摘できる、で目標値より8%低い。	【4年】実験結果から読み取り、記述で答えることが苦手である。 【5年】学んだことを日常生活に当てはめて考える機会が少ない。 【6年】考察することが苦手であり、応用力が足りない。また、グラフ(資料)を読み取る力が不十分である。仮説・予想を立てる学習が不十分である。
英語	【6年】音声を聞いてアルファベットを書くで、大文字小文字共に、目標値より下回っている。「英文の完成」では時間割を読み取ることや、教科名を書き写すことが、目標値より低くなっている。	【6年】アルファベットを書いたり、聞き取ったりするのが不十分である。新しい単語について定着する練習が不十分である。
体育	全学年「ソフトボール投げ」が男女共に目標値よりも低くなっている。2年生女子は、「握力」の目標値も低くなっている。5年生女子は、「20mシャトルラン」の結果が目標値よりも低くなってきている。	ボールを使った遊びや、運動の経験が不足してきていると考えられる。体全体を使って大きく投げる練習が不十分である。

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
① 各教科	国語	<ul style="list-style-type: none"> 筋道を立てて考える力や感じたこと、想像したことを伝える力を育成する。漢字の書き取りを定着させる。 「令和6年度学習力サポートテスト」において、実施学年で区の平均点を上回るようにする。
	算数	<ul style="list-style-type: none"> 単位の関係の理解度をあげる、課題に対して筋道を立てて考える力や自分の考えを表現する力をつける、わり算の計算、文章問題における図の説明をする力を育成する。 「令和6年度学習力サポートテスト」において、実施学年で区の平均点を上回るようにする。
	社会	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象において主体的に課題を追究する力を育成する。資料を読み取る力をつける。 「令和6年度学習力サポートテスト」において、実施学年で区の平均点を上回るようにする。
	理科	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な問題解決の活動を通して、自然の事象を自分の生活と関連付けて考える力を育成する。仮説や予想をたてる力、実験結果からの考察する力をつける。 「令和6年度学習力サポートテスト」において、実施学年で区の平均点を上回るようにする。

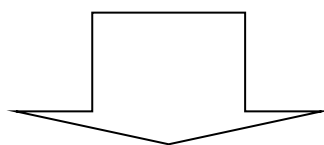
	英語	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットの聞き取りや書き取りの習得と、新出単語の習得。 ・「令和6年度学習力サポートテスト」において、区の平均点を上回るようにする。
	体育	<ul style="list-style-type: none"> ・「令和6年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活運動習慣等調査」において、区、都、全国の平均点を上回るようにする。
② 授業改善		<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすく、確実に学力を定着させる授業をめざし、学校評価の児童・保護者アンケートの授業に関する項目で、肯定的評価を90%以上にする。
③ 家庭との連携		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携のもと、学年×10分の家庭学習の習慣を身に付けさせる。
④ 体力向上		<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツテストの各項目と水泳、持久走、および縄跳びにおいて、学年に応じて設定する数値目標の達成率を80%以上にする。



【目標達成のための具体的な取組内容】

① 各教科	
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいや発達段階に応じて、話の内容や文全体の構成を考えながら目的や意図を理解するなどの指導を積み重ねる。 ・年に4回、季節の詩を作成し、語彙力や文法力、文章力を高める。 ・読書の推進を行う。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生以上で習熟度別少人数指導を導入し、個に応じた指導を継続的に行う。 ・低学年から図と式、言葉で自分の考えを説明する数学的な考え方や相手に伝え合い学び合う学習を積み上げる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の学習過程に沿った授業の展開を工夫し、社会的な見方や考え方、資料の読み取りについて指導する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容と実生活との関連を図りながら、問題解決を通して実感を伴った学習内容の理解ができるようにする。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・担任とALTが連携し、興味・関心をもって取り組む学習活動の工夫をする。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都の体力調査の結果を踏まえ、強化すべき体力を焦点化して、体力向上のための環境を整える。
② 授業改善	
取組 I	<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動、文章を読み取る学習活動のほか、考えたことを文章にまとめる活動の充実を図り、読む力と書く力を育成する。

取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットPC等ICT機器を活用し、数学的活動や、自分の考えを言葉や図、式で表現する活動を工夫し、数学的な考え方を育てる。
③家庭との連携	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・学年×10分間の家庭学習が習慣として身に付くように、保護者会や個人面談などを通して保護者との共通理解を図るとともに、家庭学習を日常的、計画的に取り組めるようにする。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・個人面談や通知表などを通して、学力調査の結果や日常の学習活動への取組などについて、児童の個々の状況を適切に保護者へ伝えるとともに、よりよい成長のための手だてについて共通理解を図る。
④体力向上	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・縄跳びカードを活用し、学年ごとの達成目標を設定して個々の技能に応じた指導の充実を図る。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・持久走カードの活用や、持久走重点週間の設定、体育の授業に継続的に持久力を高める運動を取り入れることで、児童の意欲と体力の向上を図る。投力については、授業において正しい投げ方の指導や、ゲームを通して楽しみながら習得していけるようにする。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
① 学力基 盤	国語		
	算数・数学		
	社会		
	理科		
	英語		
	体育・保健体育		
② 授業改善			
⑤ 家庭との連携			
⑥ 体力向上			